

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690900200		
法人名	日本ケアシステム 株式会社		
事業所名	グループホーム よろこび伏見		
所在地	京都市伏見区向島二ノ丸町32		
自己評価作成日	平成26年3月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 あい・ライフサポートシステムズ		
所在地	京都府京都市北区紫野上門前町21		
訪問調査日	平成26年4月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 「おもてなし」の心で、笑顔で利用者様と接する介護を心掛けている。
② 利用者様一人一人の人格と意欲を尊重する介護を心掛けている。
③ 地元の農家の方から仕入れた米や野菜を使い、栄養のバランスを考えた食事の提供。
④ 常に清掃が行き届いた清潔感のある施設の保持。
⑤ 体操・散歩・書道や絵画・ゲームなど、利用者様にとって飽きのこないレクリエーションの実施。
⑥ 地域との関わりを施設運営に取り組みこと。社会福祉協議会や民生委員が施設行事に常に参加。
⑦ 構造強度の高い壁式鉄筋コンクリート造で、地震に強い安心感のある施設。
⑧ 照明やインテリアなど、穏やかに優しい空間づくりにこだわった内装。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該施設は施設長の親族が所有する茶畑を整地し、地域に貢献したいという意向で2013年6月に開設されました。職員も地域住民が多く、自治会への参加はもとより民生委員や社会福祉協議会とも深いかわりを持ち、ボランティアとしても祭りや施設行事に参加されています。耐震設備が整っていることで災害時の避難場所としても地域に提供しています。施設を地域に開放することで地域のかかわりを大切にしており、施設を中心にコミュニティが形成されています。家族の訪問が頻繁にあるため、管理者や職員は家族とコミュニケーションを取る機会が多く、良い関係性が構築されています。施設での看取りに関しても医療や関係者と連携を取りながら、家族の意向を尊重して看取りに向けてケアの統一を図っています。管理者は常に職員の声を聴きそれを職場に還元することで利用者が住みやすい環境作りに努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の全体会議は施設長も出席し、事業所の理念については、繰り返し確認している。理念にそぐわない行動については職員間での牽制が働くようにしている。	会社の基本理念のもと「笑顔が一番」という事業所独自の理念を事業所内に掲示、職員会議で唱和することで共有し、理念に基づいたサービスを一人ひとりの人格を尊重しながら提供しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の民生委員の方が書道の先生としてレクに参加しています。行事の時は、自治会の方や社会福祉協議会の方が、ボランティアとして参加していただいています。	事業所開設時から「いずれはお世話になるので」と地域の理解もあり、採れたての野菜の差し入れをして頂くなど、良好な関係が構築されています。また、自治会に加入し、広く地域の方とのかかわりを積極的に持っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	このよこび伏見では、行事などを通じて、地域の方が、利用者さんと接する機会が増えてきています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者様の意見の反映と民生委員の方の意見を取り入れている。食事のことや、レク・行事のことなどを協議しています。	利用者・家族・地域包括・民生委員・近隣の居宅のケアマネジャーにオブザーバーとして参加協力を得て開催しています。会議では近況報告や意見交換を行いながら、参加者より意見や助言を得てサービスの向上に努めています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	グループホームの開設の8か月後に小規模多機能型居宅介護を開設しました。その際に京都市介護保険課の方とは、グループホームの状況については逐次報告して参りました。	運営推進会議の議事録を役所の窓口に届ける際に、事業所で行った催しの報告書を届けることで事業所の実情を報告するなど顔の見える関係作りを努めています。	事業所独自の広報誌を作成し、事業所の実情を報告して、更なる協力関係を構築されることを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない介護の取り組みについては、周知徹底していることとです。ユニット毎には施錠はしていませんが、建物の玄関としては夕方以降は施錠しております。	身体拘束委員会を設置し、マニュアルも見直し、職員に周知徹底するための研修計画を作成しています。職員会議では言葉の抑圧が無いように注意し、また外に出られる際は寄り添うなど身体拘束ゼロに向けて努力しています。	更なる資質向上を図り早急に計画に基づいた研修会開催を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回の定例全体会議では、利用者様への虐待の事実がないかどうかチェックしています。乱雑な言葉づかいでも当施設は許さない風土を作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの勉強会の必要性を感じていますが、現時点では実施できておりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約並びに重要事項説明書に基づく内容の説明は、施設長がご家族(身元引受人)に、場合によっては利用者様も同席の上、行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当施設では、土曜日・日曜日の利用者様の家族の面会が多く、管理者、ユニットリーダーが積極的にご家族とコミュニケーションをとっています。	家族の訪問が多く積極的にコミュニケーションを取ることで関係作りに取り組んでいます。請求時に文書や電話で状況報告を行っています。元のケアマネジャーと連携を取り、利用者のさらなる理解に努めています。	利用者や家族の更なる意見収集のため、意見箱の設置や家族向けにアンケート等を実施することを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長が職員一人一人との個人面談の機会を持っています。その時に、利用者様の状態のことやユニットの運営上の意見を聞いています。	月1回の個人面談とは別に、夜勤帯に施設長が職員と話す機会を設け、その結果施設長と職員との信頼関係が構築されています。利用者個々の好みに応じた飲み物提供により、水分摂取が確保されるようになっています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が職員一人一人との個人面談の機会を持っています。その時に、職員が考えるキャリアプランやライフプランについて話をしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	厚生労働省指定の外部への研修は、職員の中から選抜して参加させています。職場内での研修については、現時点では出来ていません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議において、オブザーバーとして、同一生活圏域のグループホームのケアマネジャーを招いております。その場で情報交換を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報の整理と、アセスメントの確立を目指していますが、開設当時に入所された利用者様については、十分な準備が出来ていませんでした。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込段階で、まずは利用者さんの既存のケアマネージャーからの情報に基づき、介護認定関連の資料を入手しています。その後、ご家族との面会を実施し、要望などを聞くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずは、施設に慣れていただく事を第一にしています。慣れてくると、体操や散歩など病院などに居た時には出来なかったことを、ここで出来るように試みています。(排泄や歩行など)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護の基本的方針として、当施設を利用者様の「家」と思って過ごしてただけよう心掛けています。食事に関することや、清掃や洗濯に関して利用者様と職員が一緒にやるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状態や暮らしぶりについて、折に触れご家族への報告を行っています。それを聞いたご家族からの、意見や感想をもとに、日頃の介護に生かすようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様宛のハガキや手紙は勿論のこと、時々かかってくる友人などからの電話も状況を見て、利用者さんにつなぐようにしています。	日々友人や家族の訪問が多く、馴染みの理容室に出向く支援等を行っています。外出は家族の協力を得て馴染みの場所にドライブするなど個々の生活習慣を大切にしよう取り組んでいます。	センター方式を取り入れることで職員の気づきや情報を得た際に、随時書き込む形を取り、利用者を中心とした支援の輪をマップととして作成されてはいかがでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の喧嘩などが無い訳ではありませんが、リビングや食事の時の席の位置などに気を配っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現時点で、サービス利用が終了したケースはありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	すべての利用者様の一人一人のニーズ(潜在的なものを含む)に応えきれていないのが現状です。外出や散歩、買い物など職員の業務の習熟度を上げて、時間の余裕を作る必要性を感じています。	意思疎通の困難な方には寄り添い、日々の表情や行動から汲み取るようにしています。一人ひとりの利用者のより深いニーズを把握するため、家族や過去のケアマネージャーと連携をはかっています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様によっては、入所前の情報が不足している点があり、十分な過去の経緯の把握が出来ていない方もいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員が定着してきましたので、利用者様の日常の変化などを感じ取り、把握できるようになってきました。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在介護計画については、委員会・勉強会を通じて策定中です。	アセスメント・モニタリングの書式を見直し介護計画策定時には利用者・家族の意向を課題として、職員の意見を聞き担当職員とケアマネージャーが作成しています。介護計画は立てているが見直しが不十分となっています。	早急に新書式に沿って、モニタリングの際にアセスメントに基づいた介護計画の見直しをされることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や、日常の健康・衛生管理状況については、ユニット毎に情報を共有しています。ユニット会議(ケアカンファレンス)も実施しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	季節感のある共用部の装飾や季節ごとの地場農家の野菜をつかった料理。自治会と一体となった祭り行事の開催。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設周辺に咲く「桜」「ツツジ」「椿」などの散歩による鑑賞。地元図書館への散歩。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医である小川医院の小川医院長さんが、全利用者を往診や通常検診を通じて理解してくれているので、体調に異変があった際も、すぐに相談できる体制を敷いています。	入居時に協力医への移行を行っています。かかりつけ医に受診する際は家族が対応しています。24時間対応できる協力医との連携もはかられています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の個別対応ですが、訪問看護による協働を実施しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	まだ、事例としては少ないですが、施設長や管理者、ユニットリーダーが病院へ赴き利用者様の状態の把握と病院とのコミュニケーションを図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事例としては、現時点で一つです。主治医の小川先生と利用者様のご家族2名と、施設長とで看取りに関する方針についての話し合いの場を持ちました。	入居時に重要事項説明書で施設の看取りの方針を説明しています。現在終末期の方がおられ、家族の意向を踏まえ協力医や家族、施設長を交え話し合いを行っています。方針を共有しチームで支援に取り組んでいます。	更なるスキルアップを目指すためにターミナルケアの研修計画を策定されることを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故防止委員会が中心となり緊急対応時のマニュアルを作成中ですが、まだ訓練などは実施できておりません。また実践力もまだまだ未熟だと感じております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応について、全職員が熟知しているレベルには到達しておりません。地域との連携については、自治会の会長や三役の方と話し合いの場は持っています。	当該施設は音声や光による高レベルの避難誘導装置やスプリンクラーが設置され、強度の耐震性も保持しているため、地域の避難場所となっています。まだ避難訓練は実施されていません。	地域の協力体制は構築できているので、地域の方の参加を呼びかけ、昼夜、水災害に向けた避難訓練を実施されることを求めます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切にする理念の徹底は出来ていると思いますが、利用者様への言葉遣いに関して、職員間でのバラつきがあると感じています。	一人ひとりの人格を尊重するという理念は職員に周知されています。「笑顔が一番」という理念のもと、本人の気持ちを大切に言葉かけをしています。	特に言葉かけや対応に対し、年間の研修計画を立て、研修を重ねることにより、職員の意識を高めることを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が言葉には表せない潜在的なニーズまで汲み取りたいと思っていますが、まだまだ実践出来ていません。きっと一人一人淋しい思いなど、あると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員（一般介護従事者）が対応できる希望にはお概ね沿っていると思います。しかし、一般常識の域を超える希望については、施設長・管理者マターとしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	偶数月に美容師さんに訪問してもらい、ほぼ全員（女性利用者）のヘアースタイルを実施しています。男性の利用者様は職員と散歩を兼ねて近くの理容店に行って散髪・顔そりを実施しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の提供、メニューの考案について利用者様の健康状態を考慮しています。食事を作ることに際しての協働は希薄です。片付けや食器洗うなどは、利用者様と職員が協力合っています。	三食とも手作りの食事を提供し近隣農家から頂いた旬の野菜をメインとした献立を提供しています。個々のできることで盛りつけや食器洗い、片付けを職員と一緒にしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「介護記録」「水分・排泄記録」において、日常管理を行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と寝る前の口腔ケアは実施していますが、毎食後までは出来ておりません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつやパッドの利用を少しでも減らすよう、時間を決めての排泄誘導や声掛けを行っています。	トイレへの誘導を基本としています。排泄チェック表を活用し個々の排泄パターンを把握することにより、おむつの利用が減っています。また、排泄誘導時は言葉かけに配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜をふんたんに取り入れたメニュー作りを心掛けています。水分摂取についても色々と種類を変えての飲み物の提供を心掛けています。(お茶・コーヒー・紅茶・昆布茶・スポーツドリンク・野菜ジュース・カルピスなどを常備しています。)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一日に入浴できる人数や時間帯など、一人一人の希望に沿った入浴の機会の提供は、不十分だと感じています。	個室で対応し湯もその都度入れ替えています。同性の職員介助・朝風呂など、個々の要望に応じた支援も行っています。拒む方に関しては家族から情報を得て、時間帯や職員の変更など様々な工夫で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	読書やテレビ鑑賞、昼寝など各居室でのリラックスした過ごし方ができるよう、一人一人の希望に沿って過ごして頂けるようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の状況の変化について、その都度主治医への報告と相談を行っており、薬を追加したり、また場合によっては薬を減らしたりしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵が好きな人、手芸が好きな人、利用者様の過去の職歴や趣味を把握して、それを日常の時間に役割を与えさせてもらっています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩、買い物については、日常の介護支援の中に取り入れています。外食も稀に実施してきましたが、まだ充分とは言えません。	近隣に桜並木の遊歩道があり、四季折々の花が咲き季節を感じながら散歩を楽しんでいます。その際は地域の方と挨拶を交わすなど交流しています。買い物など外出支援を行っています、家族の訪問が多く、家族と一緒に買い物を楽しむことが多くなっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては、預り金扱いとして施設側で管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話については、ご家族の了解のもとに個別対応としています。利用者様が友人などに出すハガキ(年賀状含む)については、職員がバックアップしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の過ごす空間は電球色を使用。インテリアは暖色系に統一しています。利用者様が気持ちよく暮らせるように清掃には力を入れています。	馴染みのものや利用者の作品をさりげなく置くなど心地よく過ごせる工夫が施されています。事業所内は掃除が行き届き明るく清潔感にあふれています。音・光・広さなどを配慮して工夫された建物になっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のリビングでの過ごし方、マッサージチェアの活用など退屈しないよう配慮しています。また、たまには違うユニットへ行って利用者様同士の交流が出来る機会も作っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	電気製品や、収納家具などについて、利用者様の希望をご家族に伝えて部屋での時間を有意義なものとなるようにコミュニケーションを取っています。	ベッドや一部の家具は備え付けのものを利用していますが、使い慣れた馴染みのもの、家族の写真、大切にしているものなどは随時家族が持ち込み、心地よく過ごせるように配慮しています。湿度調整のため各居室加湿器が設置されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	介助や見守りにウェイトが行きがちになり、自立した生活への支援については、現時点では不十分と感じています。		